

新聞に親しみ、記事から自分の考えを導く生徒の育成

延岡市立北川中学校
教諭 島 崎 博 英

1 はじめに

本校は昨年度よりNIE実践校となり、学校の規模を考慮した、全校で取り組むNIE活動を行ってきた。学級での朝の会、帰りの会のスピーチにおける活用や、日直活動における日誌記入での活用、教科における新聞スクラップの活動など、全校での取組は一定の成果を残すことができたと感じている。

今年度も、NIE活動推進に向けて職員間の共通理解を図ったが、昨年度同様、NIE活動の重要性を職員が十分意識しており、実践も無理なく行うことができた。決して大きな活動とはなっていないが、一方では日常の学校生活においてNIE教育が生徒にも浸透している場面をつくることができたと手応えを感じている。

2 主題設定の理由

主題は、昨年度同様【新聞に親しみ、記事から自分の考えを導く生徒の育成】とした。本校で今年度も実施した新聞に関するアンケート結果（65人回答）から生徒と新聞の関わりを読み解くことができる。まず、新聞を定期購読している生徒が、65人中42人で、全体の約65%が購読しているのがわかった。一方、定期購読している新聞を家庭で読んでいるかという質問になると、ほとんどの生徒が読んでいないという結果であった。また、延岡市独自に、「すべての教室に新聞を」という取組があり、毎日学級に新聞があるという環境から、『教室で新聞を読むか』という質問を設定したところ、「ときどき読む」と回答した生徒が最も多く、「まったく読まない」とい

う生徒もいることがわかった。さらに、アンケートの中で「新聞のどこの紙面をよく読むか」という質問を設定した。回答の中で最も多かったのがスポーツ面で34人、次に社会面で29人、政治面が28人という結果であった。

上記のアンケート結果から、家庭で新聞を購読している生徒は半数以上いたものの、実際に家庭で読んでいる生徒は少ない。また、学級に新聞があるような環境であっても、ただ置いておくだけでは、有効な新聞活用にはつながらないということである。教師側の働きかけから、新聞を目にする機会を全生徒につくり、身近なものとしてとらえることができると考えられる。そのことが、家庭でも自然と新聞を読むことにつながると考えられる。また、現行学習指導要領で明記されている「言語活動の充実」には、新聞にある活字をしっかりと読み込むことや新聞記事について自分の考えをもち、文章として表すことが大変重要であると考えられる。以上のことから、新聞を目にする場を意図的に設定することで新聞がもたらす意義や有効性を理解し、結果として主体的に新聞を読むことができ、自分の感じたことや考えを導くことのできる生徒を育成したいと考え、この主題を設定した。昨年度同様の主題となったが、昨年度の成果と課題を見据え、新たな取組も行っており、主題の実現に向けた実践を行うことができたと考えている。

3 実践内容

- (1) 日直活動における日誌記入
- (2) 社会科の課題（新聞スクラップ）
- (3) 学級活動の時間における「今日のニュース」作成
- (4) 朝の読書における新聞の活用
- (5) 社会科の授業における取組

4 具体的取組

(1) 日直活動における日誌記入

第3学年での活動である。日々の日直活動において、「学級日誌」を記入するが、そのコメントを、新聞記事の要約と自分の考えを書く活動に変えたものである。下に写真をつけているが、その日の日直の生徒は、早い生徒で朝から新聞に目をとおり、自分が気になる記事を探している姿が見られた。記入する枠に限りがあり、十分なものを書くことができなかった生徒も多かったが、新聞に目を向ける機会を日常的につくり、「新聞が身近にある」というとらえ方をすることができたのではないかと考える。また、記事を選ぶ際も、一面から順番で記事を吟味し、友人たちと話しながら考えている姿を目にすることができた。

生徒が記入した日誌（一部抜粋）

活	日	月	年
そ	く	く	く
の	く	く	く
他	く	く	く

【現代の名工に 150人選ぶ】

厚生労働省は8日、工業技術や建設、調理などの分野で優れた技能を持つ技術者150人を、「現代の名工」に選んだ。

その中の一人である辻村勝俊さんは、東日本大震災の爪痕が残る、宮古市の菱屋酒造の店主で、蔵が津波にのまれても、酒造りを途絶えさせず、60年間続けている。

（感想）

津波がきた被災地でもずっと続けてきて、本当の名工なんだと感じた。

*写真右の生徒のコメント抜粋

(2) 新聞スクラップの作成

夏季休業中の全学年の課題として、新聞スクラップの作成を行った。1人につき2枚作成をして、提出をさせた。昨年度も同様の取組を行ったが、記事の要約の方法等の指導を夏季休業前に行い、それにもとづいた要約と、自分の考えを書くよう指導を行った。要約の内容については個人差が見られたものの、どの生徒も真面目に取り組むことができた。

新聞スクラップ

